

TS-E-24-0325-01

単一日付欄を持つ旧台帳の移行例

旧値を保持し、原資料を確認してから日付区分を追加する手順を、説明用データで示します。

掲載日	2024.03.25
作成・担当	綴葉システムズ 導入支援担当
文書番号	TS-E-24-0325-01

この資料の文書番号、日付、氏名および部署は、製品の設定方法を説明するための例です。導入先の業務記録を掲載したものではありません。

例の旧台帳には「資料番号」「日付」「名義」の三欄だけがあります。原資料の表紙で「日付」が版の成立日と確認できた場合は、その値を版の日付へ登録し、表紙記載の初版作成日は別欄へ記録します。確認した担当と根拠を移行記録へ残します。

原資料をまだ確認できない行は、元の欄名と値を保持したまま、区分未確認として引き継ぎます。空欄を埋めることだけを移行完了の条件にすると、意味の異なる値が同じ項目に集約されるため、確認状態を別に管理してください。

説明用データの対応例			
旧台帳の行	元の記載	確認後の項目	確認状態
EX-001	日付 2019-04-10	版の日付 2019-04-10	原資料表紙で確認
EX-001	初版作成日の欄なし	原資料作成日 2019-03-31	原資料表紙から追加
EX-002	日付 2020-11-02	旧日付欄の値 2020-11-02	区分未確認
共通	名義欄に旧様式の既定値	様式の既定値として保持	個別の作成者と未照合

現在の参照情報

原資料本文とは別に付した参照先です。参照情報更新日：2026.10.28

旧台帳移行のフィールド対応指針



本資料はフィクション作品の一部です。作品案内：<https://docsys.piveh.com/about-this-site/>